

どきどき・わくわくを他者と共有する

何を作って遊ぼうかな、作ったものでどうやって遊ぶと楽しいかな、と子どもたちは考えます。うまく作れるかな？なかなか思った通りにはできないな、とも思います。

そんなとき、「あの子は何を作ろうとしているのかな？何がうまくいかないと考えているのだろう？」と推し測りながら、その子に関わろうとする大人がいることで、子どもたちは安心して一つ先へチャレンジできるのかもしれません。

もしも結果が思い通りにいかなくても、関わったそのプロセスにおいて、どきどき・わくわくを他者と共有できたという喜びが、きっと子どもの心には残ると思うのです。



さあ、きれいにできるかな～



ヤッホ～！
先生ここにいるよ～

望遠鏡を作ったよ。トイレットペーパーの芯とジョアのカップをつなげて、水色のビニルテープを巻いたんだ。のぞいてみたけど何も見えない。そしたら先生がジョアのカップの底を切って丸く穴を開けてくれたよ。見えた見えた！これで何を見つけに行こうかな～。おそとに出てみようって。あっ！先生が見えた。気づいてくれるかな～。「ヤッホ～！先生ここにいるよ～」って、望遠鏡の中で先生が私に大きく手を振ってくれてる！私、すごい作っちゃったな～。次は何が見えるかな？

あれ？この形ケーキみたい。色とりどりの花びらでデコレーションして、かわいいケーキをつくりたいな。

先生はケーキ屋さんみたい。スポンジをたくさん焼いてくれたよ。ボウルに砂をつめて・・・パカッとテーブルにふせたの。すごい！どうやってするんだろう？

「さあ、きれいにできるかな～」って、先生がそうとボウルを外すと・・・

わあ！すごくきれいなケーキになってる！ここからは私の出番ね。きれいなお花のケーキ召し上がれ！

「ちょっとしたきっかけづくり次第で、子どもたちのイメージはどんな形にも広がっていく」と教師は語ります。この日、型抜きした砂の土台を置いておいたことから、子どもにホールケーキのイメージがわいたといいます。お花の飾り方も一人一人こだわりがあるそうで、そのこだわりを教師はおもしろがって眺めます。

「外に出てきた子に目をやると、視線の先が自分だった」と教師は振り返ります。その瞬間をとらえて手を振ると、子どもはにっこりしました。子どもが何を見て、何を感じているのか、子どもの視線を追いながら、教師もわくわくしているのでしょう。

今日の一日は、その子の長い長い物語の中のほんの一場面です。しかし、今日のストーリーは必ず明日につながります。